

絆
きずな

東日本大震災支援 『横軸連携の経過報告』



岩手県中学校長会総会において、佐藤孝副会長（黒石野中）からこれまでの二年間の横軸連携の報告が行われた。

前段、発災当日の学校の様子、沿岸各地の様子、生徒の避難の様子、沿岸各校の被災の状況、等について改めて紹介があった。

1 一年目の支援と横軸連携

- ① 震災当初に県校長会に寄せられた様々な情報（家屋や車の損壊、医療や食料が入手困難、通学用ザックや学用品の流出、等々）に基づいた支援体制確立に向けた取り組み、学校再開に向けた最低限の準備、関係機関への働きかけ、学校間の支援（横軸連携）の立ち上げを行った。
- ② 義援金の支援について、校長会が直接配分し迅速な対応をした。
- ③ 部活動支援交流を実施し、沿岸各校へバスの手配等をした。
- ④ 生徒会交流では宿泊による相互理解を図り、県中総体では姉妹校応援が行われた。
- ⑤ 被災校の校長に集まっていただき交流会を開催した。そのことが、その後の支援や連携の在り方について貴重な情報となった。
- ⑥ 全日中からの支援により太鼓の寄贈ができた。
- ⑦ 記録集「明日を見て前を向いて」を発行した。

2 二年目の支援と横軸連携

- ① 部活動連携が全県的に展開された。このことに

より内陸部の各学校と沿岸被災校が心をつなぐ直接的な機会となった。

- ② 被災校での「わらび座公演（走れメロス）」が開催された。
- ③ 日本プロゴルフ協会から柔道着1000着が寄贈され配布した。今年度も引き続き寄贈された。
- ④ 平成24年全国中文祭栃木大会で気仙中学校が雄姿を披露し万雷の拍手をいただいた。
- ⑤ 秋田での東北大会で三町全中会長から横軸連携について高い評価と激励をいただいた。
- ⑥ 全日中会長、県教委次長、各地区校長会と被災地の校長が協議をし、心のケアはこれからが大切であるなど、多くの意見をいただいた。

3 成果と課題

① 成果

- ア 震災直後に各学校の整備への支援ができ、所期の目的は達成された。
- イ 相互に顔が見える姉妹校連携は様々なニーズに沿って実施できた。
- ウ 被災校の校長との定期的な会を開催したことで即時性をもち県全体の支援として対応することができた。
- エ 二年間の活動で内陸部の復興教育をより質の高いものとすることができた。

② 課題

- ア 支援を被災校の要望に沿ったものとし、支援校のペースや思いつきにならないようにする。
- イ 長期的展望に立ちゆっくり、じっくり、しっかりと継続すべきである。
- ウ 行政や民間ではできない、隙間をうめる支援を継続していきたい。

中学校長会と県中体連、県中文連と連携を図りながら生徒が第一の支援を進めている。経過や取組の詳細はそれぞれの活動報告書や記録集をご覧ください。